

# NEWSLETTER

平成14年度 教育研究発表会 大盛況のもとに開催

市内・全国 32 都道府県から 4 5 3 名もの参加

## 全国 32 都道府県，市内 119 校 からのご参加を得て...

3月1日に平成14年度の教育研究発表会を開催しましたところ、土曜日の午後にもかかわらず、会場あふれんばかりの皆さんにご参加いただきました。

京都市内119校から273名の教職員の皆様をはじめ、市内からは、大学関係者や学生の皆さん、そして来年度の採用予定の皆さんにも多数ご参加いただきました。門川大作教育長も各分科会の発表に参加しました。

北は北海道、南は宮崎県など、全国32の都道府県から157名もの方々にお越しいただき、総数453名、昨年度の2倍以上の参加者となる大盛会となりました。

## 全体会：清水所長より 総合教育センターに期待！

大研修室での全体会は満席の中、清水所長より「総合教育センターがめざすもの」と題し、講演が行われました。

教育改革期における開かれた学校づくりをめざし、保護者・市民の期待と信頼に応えていくために、教職員の資質・指導力の向上を図る教育センターを中心とした研修の充

実とともに、教職員一人一人の自主的研修を積極的にバックアップしていく京都市独自の制度の創設、そして日々の教育実践を具体的にサポートしていくための指定都市初の「カリキュラム開発支援センター」の開設が具体的に示されました。

「次年度からの『京都市総合教育センター』に期待します。」「京都市の教育の更なる充実に向けた方向性が明確に伝わってきて、本校の課題と取組が見えてきました。」といった感想をいただきました。

その後、研究課指導主事より、京都市が進める教育研究の基本的な考え方と三つの分科会の方向付けがなされました。

## 分科会 基礎研究の大切さが...



分科会では、子どもと保護者1000組を対象とした家庭教育調査、ADHD及び周辺の子どもたちに対する特別支援教育、小学校英語活動の在り方、指定都市共同

で実施した生活意識調査の4本の研究を発表しました。

「『その通り』『やっぱりそうだったのか』と思わせるものがあり、研究課の基礎調査・基礎研究の大切さ、現場の先生へのサポート体制の素晴らしさを感じました。」

「子どもの実態から出発し、資料をもとに今の教育課題に対し明確に方策が示され、大変現場で生かせる発表でした。」といった感想をいただきました。

## 分科会 実践と理論のつながりが...

分科会では、自己評価の意味を改めて考える学習評価の研究、小・中学校の系統性を踏まえた理科学習の在り方、各教科の学習と関連させた情報教育の進め方、そして自らの力量を高める教員研修の在り方と、四本の研究発表を行いました。

「各発表とも、学校での実践を紹介していただいているので、理論とのつながりがよくわかりました。校内研修も一人一人が意欲的・主体的に参加できるものとしていきたいです。」「大変勉強になりました。今日の研究発表会の内容を自分も実践していけるようがんばっていききたいと思います。」のご意見をいただきました。

## 分科会

教育の重要性、教師の責任を...



分科会では、「心の健康」を育むことをめざした運動部活動の在り方、生徒の職場体験を活かした道徳教育、複数の教科や領域を組み合わせて進める中学校での人権教育と、小・中学生 3000 人を対象とした学習意欲調査の結果を報告しました。

「教育の重要性、教師にとっては『授業の面白さ』とその責任を強く感じました。」「毎日授業に追われ、永松が遠くなりますが、情報を利用していかねばと思いました。本日の発表の内容は、子どもを理解するためのわかりやすいデータ

でした。ありがとうございました。』などの力強いご感想をいただきました。

## 子どもたちへの熱い思いを改めて確かめ合っ...

いずれの分科会場も、熱心に聞き入ってくださる方々であふれ、急遽口ビーにテレビ放映する事態にまで至りました。他府県から参加された方々からも、以下のような貴重なご意見をいただきました。

「永松記念教育センターの研究の豊かさ、深さにあらためて勉強させられました。」「研究の熱いエネルギーをととても感じました。」「分科会のテーマ一つが、重要なもので、中身が濃い提案でした。」「多くの素晴らしい研究発表に感心しました。他県から参加しましたが、京都市の教育の情熱を感じました。」「研究のテーマ決定や研究体制がとてもよいと思いま

した。」「子どもたちへの熱い思いが具体的な形で伝わってきました。」「元気が出てきました。久しぶりに満足の行く研究会でした。』

## 実践に活かすことのできる研究成果をお手元に...

今回の研究発表会は、時間的制約の中での発表であり、決して研究の全体像を報告できたわけではありませんが、このように、参加された皆様から数多くの励ましのご意見をいただきました。

中でも、「研究紀要に期待します。」との意見もいただき、そうしたご期待に応えられるよう現在、報告のまとめを急いでおります。4月には、各学校に「研究紀要」とその CD-ROM 版をお届けいたしますので、ぜひご覧いただき、各校での実践や研修などに活かしていただけたらと思います。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

指定都市教育研究所連盟【編】『教育改革の中の子どもたち』

3月刊行

## 生活・人間関係・自己像・学校の視点から

教育研究発表会の分科会でも報告しましたが、当教育センターが加盟する指定都市教育研究所連盟では、平成 12 年度より進めてきた共同研究の成果を、上記の本にまとめて刊行しました。今回の研究は、教育改革の真っ只中で、子どもたちの生活や意識の実際はどうか、はたして子どもたちは変わったのかという問題意識のもと、全国の政令指定都市の子どもたち 14400 人を対象にした他に類をみない大規模な質問紙調査に取り組んできた結果をまとめたものです。

その内容は、「子どもの生活」「子どもの人間関係」「子どもの自己像」「子どもと学校」の四つの観点からまとめられていますが、とりわけ今回の研究の大きな特徴として、過去に実施された調査問題を再び活かすことで、子どもたちの変化を明らかにしようとしたことです。例えば、「おこづかいの額」や「就寝時間」、「友だちの数」「生き方として大事なこと」などについては 23 年前のデータと比較し、「友だちからの信頼」や「家の人と話せない理由」は、20 年前のデータと比較して分析・考察しています。その他にも、興味深い調査結果が示されており、校内研修や保護者懇談会の資料などに活かしていただくことができます。

3月末には各学校に一冊ずつ送付いたしますが、ぜひ、多くの教職員の皆様に読んでいただきたいと思ひます。



平成 15 年 3 月 25 日刊行 B5 判・134 頁 東洋館出版社